

2024年5月16日

西日本旅客鉄道株式会社

第一回芸備線再構築協議会構成員意見に係る当社の考え

1 構成員からのご意見（※第一回芸備線再構築協議会議事概要より抜粋）

- ・JR西日本は、内部補助によるローカル線の維持が難しくなったとのことだが、本年度の業績予想は連結経常利益が1460億円で、民営化当初と比較して大きく伸びており、こうした経営状況を踏まえ、なぜ維持できないのかを説明いただきたい。
- ・JR西日本には、コロナ禍における赤字から経営努力により黒字へと転換する中で、引き続き内部補助により路線を維持していくことが難しいとされる理由を示していただきたい。

2 ご意見に係る当社の考え

- ・従来からの大きな課題である沿線地域の人口減少、道路を中心としたまちづくりの進展などの環境変化に加えて、コロナ禍を経た行動変容により特に通勤・通学やビジネスの利用はコロナ禍前よりも減少しており、自然体で元に戻るものではないと考えており、ローカル線についても従来以上に将来に向けた課題提起の加速を図っております。
- ・それらの課題に対して、営業努力を続け鉄道事業全体で更なる利便性や生産性の向上が必要と考えておりますが、民間企業である当社としては、大量輸送という鉄道の特性を發揮できていないご利用の少ないローカル線に対して、利便性や生産性を高める設備投資などを単独で行うことは困難です。今の形のままであればこの先も需要に合わせてダウンサイジング・効率化していくこととなりますが、それでは地域交通としては問題の先送りに過ぎません。
- ・大量輸送という鉄道の特性を發揮できていない線区については、持続可能な地域社会の実現（＝移動しやすい地域づくり）に向けて、線区の特性の違いや移動ニーズをふまえ、地域のまちづくりに合わせた、今よりもご利用しやすく持続可能性の高い地域交通体系を地域の皆様と共に創りあげていく必要があると考えています。
- ・地域共生企業として、今後の大幅な人口減少局面において沿線地域の課題を共に解決し、持続可能な地域社会を実現することが大切であると考え議論をお願いしております。